

各地の話題 大郷町

2026年1月9日号掲載



農地・水保全会でPR看板 製作地域の新たな目印に

県道241号線竹谷大和線沿い大郷町不來内地区の公民館近くに、地区の農地や水路、農道などの保全管理を行っている「不來内農地・水保全会」が自作した看板が立てられている。

制作のきっかけは、前会長の故村山常雄さんの考えがあった。以前から会の活動の見える化と集落の場所がわかりにくいため地域の目印となるランドマークを作りたいと、2018年に会長の退任記念も兼ねて看板を作ることになった。

看板の製作費は多面的機能支払交付金を活用。デザインや塗装などの制作に携わった書記の村山貴宏さんは「端材などを利用し自主施工したため費用は抑えられた。公式キャッチフレーズとロゴマークを載せ、農地の多面的機能活動の取り組みだとわかるようにした。」と制作の様子を振り返る。

当時副会長だった現会長の仙石正さんは「色彩豊かに出来上がったためよく目立つ。道案内をする際に、看板を起点に説明できるようになったので良かった。有意義な交付金利用で地域資源の保全に努めたい。」と語った。

【記事執筆】 宮城県農業会議

看板を背に村山さん（左）と仙石さん



「色を最近塗り直した」という看板

